

8. 都市生態学的发展

バージェス以降、都市生態学そのものはどのように発展してきたか。

(1) 同心円理論とその修正

●細かい修正提案

- ①金融業務地区
- ②中心小売地区
- ③卸売・軽工業地区
- ④重工業地帯と労働者居住地区
- ⑤住宅地区
- ⑥通勤者地帯

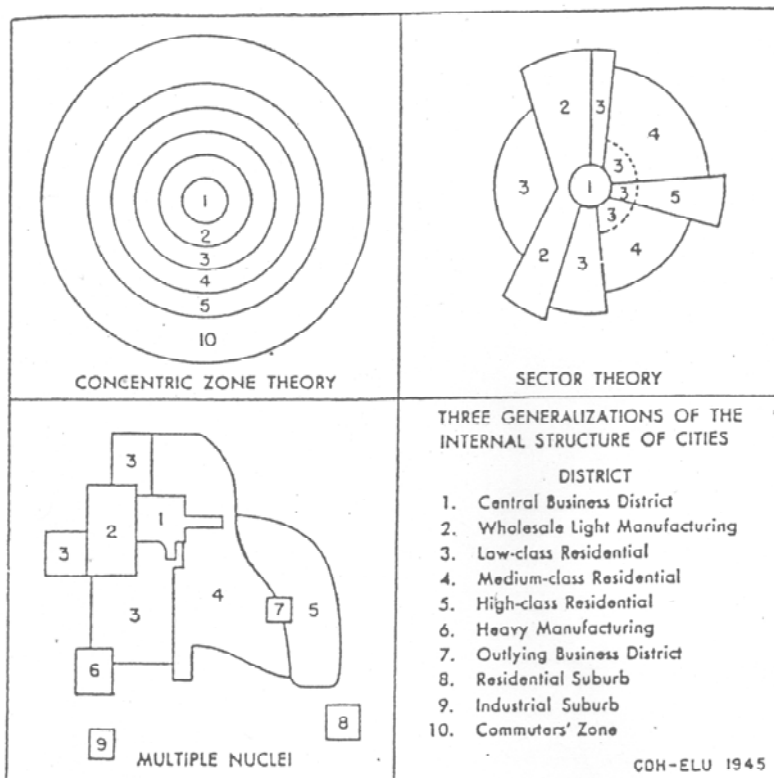


FIG. 1. Generalizations of internal structure of cities. The concentric zone theory is a generalization for all cities. The arrangement of the sectors in the sector theory varies from city to city. The diagram for multiple nuclei represents one possible pattern among innumerable variations.

(2) セクター理論

●H.ホイットが提唱。

- ①放射線状に伸びる交通の軸線に沿って、特定の地域が外側にむかって扇形に展開する。
高級住宅街は、最速交通路線に沿って拡大する。
重工業地帯の周辺に労働者居住地域が展開。
- ②高速交通手段の発達、重工業の大規模な発展が、同心円理論の修正・否定をもたらした。

(3) 多核心理論

- ハリスとウルマンが提唱。
- ひとつの中心ではなく、複数の核を中心に、周囲の土地利用が決まる。
 - ①最初から複数の核がある場合：ロンドンのウェストミンスターとシティ
 - ②都市発展の過程で新しい核ができる場合：サウス・シカゴのカルメット川沿いの製鉄地帯。
- 核になるもの：小売地区、港湾・鉄道、鉱山、観光都市の海浜
- 核を中心とした立地の原理
 - ①施設へのアクセスの良さ
 - 工業地にとっての港、鉄道、広い区画など
 - ②集積の利益
 - 商業地
 - ③好ましくない利用の分離
 - 工業地と住宅地
 - ④地価
 - 安価なところは低所得者の居住地になる。

(4) 文化的生態学

- ファイアレイによるボストンの土地利用研究。
 - 経済原則では説明できない土地利用のパターンもある。
 - ①ビーコンヒル----ボストン中心部にあり、ボストンの文化的伝統をとどめる高級住宅街として維持されている。
 - ②ボストン・コモン---ボストン中心部にある公園。元国民軍の演習場。周辺に独立戦争の歴史的記憶をとどめる史跡群がある。史跡保存のため再開発禁止。
 - ③ノースエンドのイタリア人街。イタリア人の民族的連帯の象徴。
- 空間に言及する感情やシンボリズムが、土地利用の変化に対する抵抗力、維持力、復元力となる。→のちに「シンボリック・コミュニティ」論に影響。

(5) 社会地区分析と因子生態学

- 社会地区分析
 - シェブキイとウィリアムズ：ロサンゼルス社会地区分析 (Shevky and Williams 1949)
 - シェブキイとベル：サンフランシスコ社会地区分析 (Shevky and Bell 1955)

センサス・トラクト（国勢調査の統計地区）単位の分析。
都市を構成する各地区は3つの軸（次元）に沿って分化する。

指標

- | | |
|-------------------|---|
| (1) 社会的地位 (経済的地位) | 職業：ブルーカラー比率をトラクト単位で標準化
学歴：小学校卒業者比率をトラクト単位で標準化 |
| (2) 都市化 (家族的地位) | 出生率：5歳未満の子ども数 / 15歳～44歳女性
女性就業者：14歳以上の女性就業者比率
一戸建て住宅：一戸建て住宅比率 |
| (3) 凝離 (人種・民族的地位) | 相対的に孤立している人種・国籍集団の凝離指数 |

●これを方法的に洗練したのが因子生態学 (Bell 1955)。

因子分析という統計的分析手法を用いて、複数の変数を限られた数の尺度に集約。

多くの都市で、社会経済的地位、家族的地位、人種・民族的地位の3次元が現れる。

空間的には、社会経済的地位は、セクター型 (一部同心円型)

家族的地位は、同心円型

人種・民族的地位は不規則に分散 (Rees 1979)。

この方法は、地理学の等質地域分析として発展。

●問題点 空間的パターンを記述することはできてもそれを説明する理論が未発達。

①空間をめぐる経済的競争の結果として解釈される。

しかし、(1)歴史的に形成された文化的要因

(2)差別的住宅市場*

(3)政府による政策的介入

(4)不動産資本などの供給側の要因

なども考慮する必要がある。

②時系列的分析に不向き。1時点のパターンを記述することはできても変動を記述・説明できない。

「都市化」→社会的分化→空間的凝離という隠れた前提。

1970年代以降、「都市危機」「都市衰退」によりこの前提が崩れる。